

2023 年 1 月 30 日

2022 年度聖路加国際大学大学院
看護研究科課題研究

題目

認知症高齢者の生きる意味への看護師の思いと支援：M-GTA を用いた分析
Nurses' Thoughts and Care in the Meaning of Life of Advanced Older Adults with
Cognitive Impairment: An Analysis Using M-GTA

学籍番号：20MN304
氏名：坂本みづ希

要旨

〔目的〕 認知症者へのケアではスピリチュアルケアの重要性が注目されてきている。本研究の目的は、認知症病棟に勤務する看護師の認知症者本人の生きる意味や目的の認識、およびそれを支援するケアの実践内容について、インタビューをもとに記述することである。

〔方法〕 対象は、首都圏の認知症病棟を有する3医療機関に勤務する常勤看護師6名とした。方法は、対面またはオンラインにて半構造化インタビューを行い、逐語録を作成した。分析は、Modified Grounded Theory Approach の手順に沿って行った。

〔結果〕 インタビューの分析から、2つのコアカテゴリー《生きる意味への気づき》《唯一無二の空間作り》、7つのカテゴリー【認知症者本人の苦悩への気づき】【感性をみがく】【心地よい感覚で包むための挑戦】【途切れない心地よさ】【生かされている本人からの教え】【地域に繋げる空間作り】【本人をよく知る人との関わり】、および4つのサブカテゴリーと16の概念が生成された。看護師は、日々の業務の中で認知症者本人の《生きる意味への気づき》に至り、日々【心地よい感覚で包むための挑戦】を続けていた。その挑戦の中で看護師は【生かされている本人からの教え】により葛藤したり、【途切れない心地よさ】の必要性に気づいていた。この思考は日々の【心地よい感覚で包むための挑戦】を洗練させることや、【地域に繋げる空間作り】への考えへと繋がっていた。看護師はこの4つのカテゴリーを【本人をよく知る人との関わり】から影響を得ながら循環思考していた。そして認知症者一人一人にとって脅かされない安心出来る空間を作り上げる《唯一無二の空間作り》へと至っていた。

〔考察〕 看護師の認知症者が生きる意味および目的の認識は《生きる意味への気づき》から始まる。それは各カテゴリー間を循環する思考であり、生きる意味および目的の認識には看護師自身の経験や背景が影響すると考える。そして、《唯一無二の空間作り》へとつながっていく。《唯一無二の空間作り》に至った看護師は、また新たな認知症者の《生きる意味への気づき》に至るため、この2つのコアカテゴリーは相互に影響し合っていると考えた。さらに、看護師は日々のケアを行いながら認知症者の生きる意味および目的について思考を続けているため、その認識とケアの内容は能動的に変化していることが示唆された。

〔結論〕 認知症者の生きる意味および目的は《生きる意味への気づき》から《唯一無二の空間作り》に至るものであり、その認識の裏には看護師の複雑かつ高度な循環する思考があった。今後、理論的飽和の確認やメンバーチェックングを行い、より一般化可能性について検討することが求められる。